

NEWSLETTER

AUG. 2026

ISSUES #16

当社の旬な話題をご紹介します
大気社ニュースレター

発行元：株式会社大気社 経営企画部
広報・サステナビリティ推進課
連絡先： mailmast@taikisha.co.jp

現場を知ることから、 大気社は 始まる

入社1年目、5か月の実習で受け継ぐ「顧客第一」と現場力

Introduction

大気社では、入社1年目から「現場」を経験する人材育成を行っています。将来、営業や管理部門などで業務を担う社員（以下、事務系社員）であっても、約5か月にわたり施工現場で実習します。なぜ、事務系社員にも、一定期間の施工現場での実習経験を設けているのでしょうか。

その背景にあるのが、大気社が大切にしてきた「顧客第一」の考え方と、現場を起点に仕事を考える姿勢です。仕事の最前線で設備や技術、人との関わりを学ぶ。大気社の現場力を次の世代へつなぐ、人材育成の取り組みを紹介します。

仕事の原点を、最前線で学ぶ

2026年度、大気社には107人の新入社員が入社。全体研修や安全教育、基礎技術教育を経て、各部門で実務に向けた研修を進めています。そのうち事務系の新入社員17人は、6月から約5か月間、各地の施工現場で実習しています。現場実習の目的は、大気社の仕事はどこで、どのように価値を生むのかを理解することです。設備や施工に関わりながら仕事の進め方を学び、将来、営業や管理部門から現場をどう支えるかを考えます。

現場で「顧客第一」を学ぶ

施工現場には、大気社の社員だけでなく、発注者や施主、協力会社など、さまざまな立場の人が関わっています。求められるのは技術知識だけではありません。相手の立場を理解し、先を読んで準備し、必要な情報を共有する。日頃からの信頼関係が品質や安全を守り、発注者や施主の期待に応えることにつながります。

「顧客第一」を知識ではなく実感として理解することも、入社1年目から現場を経験する大きな狙いです。実習後、事務系社員は営業・管理部門での実習へ進みます。現場で得た視点を生かし、現場の状況や働く人の立場を踏まえて考えられる社員へと成長していきます。

新入社員が見つけた、大気社の「現場力」

昨年度には、事務系新入社員16人が約5か月間の現場実習を経験し、その学びをレポートにまとめています。そこには大気社の現場で大切にしている姿勢が表れています。



「職人さんの手を止めない」

研究開発施設の新築工事現場の実習で「一番の学び」だったのが、現場の先輩から聞いた「職人さんの手を止めない」という言葉です。「施工管理の業務は、事前準備や段取りを、いかに先をイメージして行えるか」と感じ、あわせてコミュニケーションや関係づくりの大切さも学びました。



信頼関係が、仕事を動かす

現場実習を通じて、周囲の人と関係性を構築することの重要性を学びました。普段から大気社内外の多くの人とコミュニケーションを取り、関係性を築いている先輩は、他社やお客さまにも意見が通りやすいことを実感。一方的にお願いするのではなく、日頃から信頼構築に努めることの大切さを学びました。



「何となく」で仕事をしない

製造施設の新築・改修工事現場では、協力会社の方々に段取りを十分に共有できず、作業を円滑に進められなかった経験がありました。振り返ると、詳細な作業内容や役割分担、連絡手段を把握せずに当日を迎えていました。この経験から、些細な疑問点も解決し、最善の準備を行うことの重要性を学びました。



製薬工場内の研究棟建設工事で実習した昨年度の新入社員（前列右）と現場のメンバー。先輩の働く姿から、信頼関係や先を見据えた仕事の進め方を学びました。



今年5月に開催された新入社員と先輩社員の交流会。働き方や仕事への向き合い方を先輩から聞き、現場実習で得た学びをさらに深める機会となりました。

次の世代を担う社員へ、現場力をつなぐ

新入社員の成長を支えるのは、現場の先輩社員です。大気社のOJT制度では、職場全体で新入社員を育てるとともに、指導を担う社員の成長も促しています。新入社員は実務を通じて、仕事の進め方だけでなく、その背景や目的、品質・段取り・信頼・改善を大切にする姿勢を学びます。こうした経験は、将来、営業や管理部門で働く際にも、現場の状況やそこで働く人の立場を踏まえて判断する力につながっていきます。

教育責任者に聞く 現場を知ることが、その後の仕事の土台になる

—なぜ、将来、営業や管理部門などで業務を担う新入社員にも、約5か月間の現場実習を行うのでしょうか。

大気社では、職種にかかわらず、現場を知ることがその後の仕事の大切な土台になると考えています。現場には、設備や技術だけでなく、お客さまや協力会社の方々との関わり、目的を考え、先を読んで準備し、周囲と連携するなど、大気社が大切にしてきた仕事の基本が凝縮さ

れています。

新入社員には、こうした経験を通じて「顧客第一」を自分なりに理解し、その後どの部門で働いても、現場や相手の立場を踏まえて考え、行動できる社員へ成長してほしいと思います。また、新入社員を育てることは、指導する先輩社員の成長にもつながります。職場全体で次の世代を育て、大気社の現場力をつないでいきたいと考えています。



鎌田 哲夫
管理本部 人材開発部長